

PDF issue: 2025-11-06

#### 「総合的な探究の時間」に生きる「国語表現」の授業実践: 教科横断の視点から探究的な学びをつくる

#### 勝部,尚樹

(Citation)

兵庫國漢,67:11-30

(Issue Date)

2021-03

(Resource Type)

journal article

(Version)

Version of Record

(Rights)

発行元の許可を得て登録しています。

(URL)

https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100495804



# 「総合的な探究の時間」に生きる「国語表現」の授業実践

# -教科横断の視点から探究的な学びをつくる―

# 兵庫県立武庫荘総合高等学校 勝部 尚樹

#### I はじめに

資質・能力の育成に対する国語科の役割は非常に大きいと感じている。 と授業運営をおこなう立場にあったが、総合的な探究の時間における なく、他教科・他科目での学習や将来に活かしてほしいと願っている。 投業で身につけた資質・能力をもとに、生涯にわたって探究してほし 投業で身につけた資質・能力をもとに、生涯にわたって探究してほし が。筆者は令和元年度、総合的な探究の時間のカリキュラムデザイン 技業で生徒が身につけた力は、その科目のみで完結するのでは ある。授業で生徒が身につけた力は、その科目のみで完結するのでは ある。授業で生徒が身につけた力は、その科目のみで完結するのでは ある。授業で生徒が身につけた力は、との科目のみで完結するのでは

等における見方・考え方を総合的・統合的に活用することが求められ各教科・科目で育成する資質・能力と関連付けること、各教科・科目いる。また教育課程の軸に位置づけられる総合的な探究の時間では、の育成が重視され、国語科では言語力の育成を図ることが期待されてム・マネジメントの観点から教科等横断的な視点に立った資質・能力

令和四年度より全面実施となる新学習指導要領では、カリキュラ

習)の時間と関連した授業についての先行研究には次のようなものが国語科における教科横断の視点による授業や、総合的な探究(学

ている。 井上雅彦は「総合的な学習の時間が有効に機能するためには、ある。井上雅彦は「総合的な学習の時間の連携を考察している。八田幸恵・渡邉久暢は現代文の「こころ時間の連携を考察している。八田幸恵・渡邉久暢は現代文の「こころ時間の連携を考察している。八田幸恵・渡邉久暢は現代文の「こころ時間の連携を考察している。八田幸恵・渡邉久暢は現代文の「こころ時間の連携を考察している。井上志音は灘中学校・高等学校において、国際バカロレア(IB)の「知の理論(TOK)」の考え方を形成する意味を表表している。

指導記録や実践報告の数は多くない。
が、田中宏幸が指摘するように、国語表現に関する年間を通した学習が、田中宏幸が指摘するように、国語表現に関する年間を通した学習一九九五年に『自己をひらく表現指導』(右文書院)を発刊している表現の指導については、兵庫県高等学校教育研究会国語部会が

標準単位は一単位増えて四単位となっている。国語科における表現力すこと・聞くこと」「書くこと」の授業時数が拡充し、「国語表現」のが課題となっている。新科目「現代の国語」「論理国語」等では「話の答申で指摘されているように、高等学校の国語教育では表現の指導の希視で述べる実践は国語表現におけるものである。中央教育審議会

の育成はこれまで以上に求められている。

について述べる。本実践の内容は国語表現のみならず、「現代の国語 視点から総合的な探究の時間と関連づけた国語表現の年間の授業実践 以上をふまえて、本稿では特に三つの単元を取り上げ、教科横断の

「論理国語」等にも活かすことができると考えている。

#### I 授業の概要とねらい

兵庫県立武庫荘総合高等学校における授業の概要を述べる。

## 国語表現の授業概要

·対象 実践内容である国語表現(二単位)の授業概要を述べる。 総合学科二年次 (授業選択者 二八名×三講座、合計八四名)

- ·期間
- 令和元年四月~令和二年三月
- 使用教科書 大修館書店『国語表現 改訂版

学習目標

- ①社会に目を向けて、情報を収集し、探究のプロセスに基づいて、 自分の考えを論理的にまとめることができる。
- ②社会の課題を解決するために、論理性を判断しながら話し合った り、表現したりすることができる。
- ③自己のキャリアと結びつけながら、言葉遣い、文体などの表現を 工夫して、自分の考えを効果的に伝えることができる。
- ④表現を互いに批評しあいしながら、自分の表現や推敲に役立たせ ることができる。

年間の学習活動 ⑤語彙力をつけ、 表現の特色や言語の役割を理解することができる。

大まかには次の三つの時期に分けて授業を展開した。太字は本稿で

詳細に述べる単元である。(年間指導表は【資料1】を参照)。 《四月~七月 表現の基礎を身につける》

・スピーチ、エッセー、小論文で表現の基礎を身につける。 (題材はニュージーランド修学旅行に合わせたもの。)

ポスターセッションでニュージーランドについて発表する。 (講座内発表会のあと、校内の教職員を招いて、代表者による

《九月~一月 社会に目を向けて表現する》

講座合同のポスターセッションを実施。)

社会問題プレゼンテーション

### 新聞投書

- ディベート
- 新書ビブリオバトル

(自分の興味・関心のある分野、進路に関連のある分野の新書 に限定して、ビブリオバトルを実施する。)

《一~二月 自己のキャリアを表現する》

- 自己PR文作成
- 模擬面接
- 志望動機書作成

# 総合的な探究の時間(二年次)の授業概要

た。対象生徒はその授業を受けている。 施を前にして、より充実した探究学習となるように授業内容を変更し おこなっている。その指導の蓄積を活かしつつ、令和元年度の先行実 本校でも平成一五年度の開校以来、総合的な学習の時間で探究学習を は平成六年度の設置以来、課題研究が原則必履修科目となっており、 の高等学校で探究活動が本格的に実施されている。しかし総合学科で い令和元年度には総合的な探究の時間が先行実施となっており、全国 次に、総合的な探究の時間の概要を述べる。学習指導要領改訂に伴

- 対象
- 使用テキスト アキスト 『総合的な探究の時間 探究ガイドブック』総合学科二年次(一単位)〔三年次(二単位)も継続〕
- 学習目標

①課題の発見と解決に必要な知識・技能を身につけることができる。 知識・技能

②自分と社会の関わりから、自ら探究課題(問い)を立て、その課 をすることができる。(思考・判断・表現) 題を解決するために、情報を集め、整理・分析し、まとめ・発表

③主体的・協働的に探究活動をおこない、生涯にわたって探究しよ 組む態度 うとする態度を身につけることができる。(主体的に学習に取り

## 年間の学習活動

①自分の興味・関心や社会で問題となっていることから研究テーマ を設定する。配属されたゼミで活動を進める

> ②研究計画をたて、文献調査、インタビュー調査、 観察・実験などの調査活動に取り組む。調査結果を分析する。 アンケート調査、

③研究成果を発表する。

④論文(二年次では二○○○字程度)にまとめる。

## Ξ 授業デザインのポイント

国語表現の授業では、次の四点について特に工夫した。

①国語表現と総合的な探究の時間との教科連携を図ること 間と密接に関連するのは九~一二月の三つの単元であり、 本稿の要点である。国語表現の学習活動のうち、総合的な探究の時 しく述べる。それぞれ[図1]のように関連している。 次章で詳

②学習目標と評価規準を明確にして示すこと

もとに自己評価・相互評価の機会を設けた。 導と評価の一体化を目指した。授業プリント(【資料2】)には授業 「活動ありき」ではなく「何ができるようになるか」を考えて、指 の目標およびルーブリック等の評価規準を示した。また評価規準を

③組織的に授業をすること 単元で目標、 価、活動を担当教員で作り、組織的に取り組んだ。具体的には、毎 教員一人が担当する授業のみで実施するのではなく、学習目標、 目標や指導事項の共通理解を図った。また、この指導案(年間で を参照)。この作業によって、各クラスの実態を共有するとともに、 とめた学習指導案(略案)を共同で作成し、共有した(【資料3】 展開、 評価方法と評価規準をA4用紙一枚程度にま

主体的に学習に 取り組む態度	思考・判断・表現				知識・理解	単元	科目名
探究活動に 向かう力	論文	発表	調査活動	研究テーマ	探究活動の理解		
問い続け、探究活動 に強い関心を持っ	マ・主張・根拠を論	とめ、十分な説得力 を持たせて、わかり やすく、聞き手をひ きつけながら発表す	ルドワーク(インタ ビュー調査・現地調	関わりから、テーマ に関する調査をふま えて、社会的・学術 的に意義のある研究 テーマを設定するこ	探究活動の目的や方	年間の活動	総合的な探究の時間
知的好奇心を持っ て、テーマについて 採究することができ る。	理的な小論文を書くことができる。  世の中の人に向けて、自分の意見をわかりやすく書くことができる。  論理的な根拠づけをして、反驳をしながらないなかなまくこと	できる。		関わりから、社会で	探究のプロセスを理 解することができ	プレゼン 新開投書 ディベート	国 語 表 現

[図1] 総合的な探究の時間と国語表現(三単元)で育成を目指す資質・能力の関連表

進んでおらず、生徒個人のスマートフォンを利用した。

インターネット環境や個人用タブレットなどのICT機器の整備がでおり、様々な実践報告がなされている。しかし本実践時は教室の

ンやタブレット、各種ソフト・アプリケーション等の利活用が進ん

禍以降、学校現場でICT環境の整備が急速に進み、スマートフォ

原稿の下書き、清書の提出や投票に用いた。特に令和二年のコロナ授業では生徒個人のスマートフォンを利用し、発表に向けた調査、

BINGWANDING BILLIAN (BACELLA XXX 100) - 1000

④ICT機器 (スマートフォン) を利活用すること

指した。

にした。これにより、学校として組織的な指導を展開することを目

ルダに保存し、次年度以降も適宜変更を加えながら利用できるよう

一七枚)、学習プリント(年間で三四枚)はすべて校内の共有フォ

## Ⅲ 授業の実際

けて表現する」というテーマを掲げた。起きている問題に目を向けてほしいという思いから、「社会に目を向述べる。この時期は、自己のキャリアを考える前に、世の中や社会で述べる。

## 一の単元では、自分が関心のあれ会問題プレゼンテーション

法」を用いた。「KP法」とは「紙芝居プレゼンテーション」の略で、の形で数枚のA4用紙を提示しながら発表した。発表方法には「KP」この単元では、自分が関心のある社会問題について「問い→主張」

ある。パソコン、プロジェクター等のICT環境が必要なく、 キーワードや図を入れた数枚の紙を黒板に貼りながら発表するもので

視覚化して発表ができることが大きなメリットである。

(一) 単元の概要

単元名 KP法でプレゼンテーションをしよう 時期 令和元年九月(全六時間

単元目標

・社会問題について、 の考えをまとめることができる。〔指導事項:ア〕 問いを立て、情報を収集し、分析して、自分

フリップ(発表シート)を使って、わかりやすく、聞き手をひき つけながら発表することができる。

(二) 授業の展開

・「テーマ集」(小論文のテーマ別資料集の目次など)から自分の興 味のある分野、自分の進路に関わる分野の社会問題を選ぶ。

指導者の発表見本(【資料4】)で発表の方法やポイントを知る。

②調査活動

調べたことを下書きシート(【資料5】を参照)にまとめる。 選んだテーマについて、スマートフォン、資料集等で調査する。

③発表準備

内容を

示するように伝え、議論の整理がしやすいようにした。 フリップには「テーマ」「問い」「主張」「参考文献」の四つを明 作成する。フリップはA4用紙にマジックで記入する 調べたことをもとに、フリップの下書き、発表メモ、フリップを

※指導上の留意点

問いと主張を正しく結びつけること

う問いには手段を書く、というように問いと主張を結びつけ、論

「なぜか」という問いには理由を書く、「どうすればよいか」とい

理に一貫性を持たせるよう指導する。現代文考査の記述問題で、 理由を聞かれているのに「~こと。」と答えてしまうように、こ

で確認しやすいよう工夫した(【資料5】の左下部分を参照)。 い」と「主張」を「例」を付して上下に繋げ、両者の対応が自分

の対応を理解できていない生徒は多い。下書きシートでは、「問

わかりやすいように具体例やデータを入れること

ことで聞き手が想像しやすいような説明をするように指導した。 て聞く人には理解しづらいことも多い。具体例やデータを入れる テーマについて調べた発表者にとっては理解できる内容でも初め

や図などで視覚的にわかりやすく示すことを促した。 スライド作成の基本である。できるだけ文章量を減らし、グラフ

文章ではなく図で伝えること

出典(参考文献)を入れること

付けを図った。そのためフリ 出典が必要であることの意識 探究活動における調査 れるように指示した。今回は プにも「参考文献」を一枚入 である。 主張の根拠づけには の基本

を挙げるように指導した。 のあるインターネットサイト たが、できるだけ信ぴょう性 フォンのみで調査をおこなっ

#### ④発表

机の上にフリップを並べなが 四〜五人のグループを作り、 グループ内発表をする。 図 2

⑤小論文

代表者が全体で発表する。[図3] 評価シートをもとに評価をする 聞き手は発表者に質問をし、

応答二分) ら発表する。



[図3] 全体発表の様子



業時数の関係でスマート

[図2] グループ内発表の様子

#### 質問のワザ

①どういうことですか? (説明)

? ③具体的には? (具体例)

○○だと思うのですが、 あなた が△△だと思うのはなぜ (自分の考え)

#### ⑤本当に○○なんですか?

#### 掲示した 「質問のワザ」

うに伝えた。ただ、

生徒の多くは質問

増す。よって一人一つは質問をするよ

質問をする前提で聞くことで集中力が

を得られたりする。 を理解できたり、

聞き手にとっては

気づいていない視点

者は次の時間に全員の前で発表した。 にした相互評価(【資料2】参照)によって代表者を選出した。 また、 目標に対応した評 価項目 代表 を基

れた。

比較的スムーズに質疑応答がおこなわ 貼り出して参考にするように促すと、 4]のような「質問のワザ」を黒板に の方法を理解していない。そこで[図

## (三) 成果と課題

①探究のプロセスを短時間で実感することができたこと 立て→調査→まとめという探究のプロセスを実感することができた。 下書きシートのフォーマットに従って発表準備をすることで、問い 問い立てについては、下書きシートを用いて何度も個別にフィー 発表内容を六○○字程度の小論文の形でまとめる。

バックをおこなった。この経験を探究活動に活かすことができる。

## 《生徒の発表テーマ (一部)》

- ・ペットの殺処分をゼロにするためにはどうすればよいか。
- ・高齢者ドライバーの事故を減らすためにはどうすればよいか。
- 一・児童虐待を減らすための方法はなにか。
- ・格差社会に対して何をしなければならないのか。
- ・LGBTの人に対する受け入れ方は日本と海外でなぜ違うのか。

## ②社会問題について調べる経験となったこと

題について詳しく調べることは初めてであった生徒も多かった。「LGBT」「経済格差」「若者の投票率」「学力低下」などの社会問

## 《生徒のふりかえり》

- ・世の中にはこんなにたくさんの社会問題があると気づいた。
- たときが嬉しかったし、みんなに言いたいなと思いました。・一から自分で調べてみたら気づくことがたくさんあって、気づい
- 表するときには気をつけたいと思いました。ました。その他にもたくさんの反省点があったので、総合の時に発・発表した時に、もっと調べてまとめて発表すればよかったと思い

## ③KP法によって効果的な発表ができたこと

今回採用したKP法の発表形式には次のような利点があった。

・発表内容が整理できること

発表が、何を言いたい発表なのかが明確にわかるものであった。自分の考えや調査内容を整理できることも利点であった。すべての

発表内容が視覚的でわかりやすいこと

聞き手が初めて聞く内容でも、視覚的でわかりやすいフリップがあ

ンテーションソフトでは前のスライドが表示されない)。してあるため、内容の軌跡、議論の流れもわかりやすかった(プレゼるため理解しやすかった。また、KP法ではすべてのページが貼り出

・発表者が話しやすいこと

が十分にできていることから、発表者は比較的緊張しなかった。衆を終始見なくてもよいこと、フリップ作成の過程で発表への心構えを提示しながら話すと規定時間の三分を超えるほどだった。また、聴資料提示のないスピーチでは二分間も話せない生徒でも、フリップ

《生徒のふりかえり》

で経験していたので上手に役立てることができた。またこの授業のあと、総合のゼミですぐKP法をやった。国語表現ともあったので大変だったが、図も書けたし有効に使えたと思う。が出ているので発表がしやすかった。何を大きく書こうか考えるこが出ているので発表がしやすかったみて、今までの発表と違い見出し

このように総合的な探究の時間でも同じ形態で発表をさせているゼこのように総合的な探究の時間でも同じ形態で発表をさせているゼー

### 二 新聞投書

文章を書くことに焦点を当てる。田中宏幸は「課題設定や取材」の段前単元に引き続き社会への意識を持たせながら、読み手を意識した

用いて、先行実践を参考にしながら新聞投書の単元を構想した。して取り入れた教育)実践指定校であることを活かして新聞を教材に的をイメージすることを重視した。また本校がNIE(新聞を教材と階で「場の設定」が重要な意味を持つと述べている。今回は相手や目

## (一) 単元の概要

時用 ・コニューショ / And 単元名 新聞投書をしよう

時期 令和元年一〇月(全四時間)

単元目標

(指導事項:オ) ・互いの文章を批評しあって、文章表現に役立たせることができる

世の中の人に向けて自分の意見を分かりやすく書くことができる。

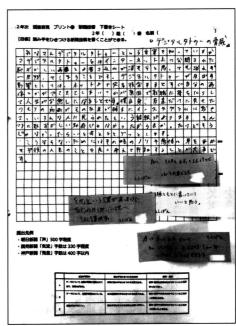
## (二) 授業の展開

①新聞投書を読む。

始めた。次に気づいたことを共有する。また一○代の投書をまとめたして)学校で保管している新聞を開き、投書欄を探して読むことから生徒は新聞を手に取る機会が少ない。まず、(NIE実践指定校と

②下書きを書く。

いること」から選ぶ。前単元と同じく下書きシート[図5]には目標の時間で研究しているテーマ」「世の中、社会に対して疑問に感じてテーマは「前単元「社会問題プレゼン」のテーマ」「総合的な探究



[図5]ふせんが貼られた下書きシート

と評価規準が明示してある。

「下書きシート」をまわし読みする。③互いに批評しあって作品を推敲する。

ふせんに「改善案」「誤字脱字」を書く。

自分のシートに貼られたふせんをもとに、下書きを修正する。

手元には[図5]のようにふせんが貼られたシートが返ってくる。

④推敲した下書きをGoogleフォームに提出する。

スマートフォンを用いて、

掲示されたQRコ

1

を読み取り、

⑤生徒全員分の原稿をまとめたプリントを読む。Googleフォーム上に提出する(【資料6】参照)。

業は、原稿を打ち込む必要がなく非常に簡易である。) (Google フォームに提出された原稿データをプリントにまとめる作

⑥「最も共感した投稿」を選んで、理由とともにGoogleフォームに

投票する。直後に結果発表

投稿には個人情報が必要なため、投稿の強制はしていない。 ⑧清書のチェックを受けた者から、任意の新聞社にメールで投稿する。 ⑦指導者の助言を受けて修正し、Googleフォームに清書を提出する。

## (三) 成果と課題

①社会問題に対して意見を持つきっかけとなったこと

経験を総合的な探究の時間のテーマ設定にも活かしていきたい。経験を通して、社会問題に対して意見を持つきっかけとなった。この社会に目を向け、世の中で起きている問題に対して意見を発信する

みんなの投稿を読んだり、自分の投稿を考えたりして感じた。れから僕たちには深く考えなければならないことがたくさんあると・今の社会の問題について、改めて考えさせられた授業だった。こ《生徒のふりかえり》

## ②読み手への意識が明確に出たこと

るという今回の活動では、読み手への意識が出たと思われる。意識が出にくかったが、スマートフォンを使ってメールで新聞社に送これまでの課題では、読み手が教員に限られていたため読み手への

《生徒のふりかえり》

今まで何も考えずに自分の伝えたいことだけを書いていたけど、

ど上手に書けたかなと思います。また挑戦したいなと思いました。と、大学の枠を超えて実際に送るというのが初めてで不安だったけているのかとか気をつけることがたくさんで難しかったです。しないと思うと、今まで以上に内容をいろんな人に伝わるように自分が書いたものが全国の知らない人達に読んでもらえるかもし自分が書いたものが全国の知らない人達に読んでもらえるかもし

送してきたため、自分の意見を発信する実感を持てなかったのだろう。送るというのが初めて」ではない。しかしそれらは教員が集約して発句の投稿など、作品を応募する活動はおこなってきており、「実際に上記二つ目のふりかえりについて、これまでもエッセー、短歌、俳

自分で送るという経験は生徒にとって新鮮であり、有意義であった。

して教員とは異なる評価軸で評価される貴重な経験となった。今回は八四名中、四名の投書が掲載され、掲載された生徒は大変喜今回は八四名中、四名の投書が掲載され、掲載された生徒は大変喜③教員とは異なる評価者に評価される経験となったこと

《新聞掲載された投書 (見出し)》※すべて令和元年の記事 十月二二日)

「「いじめは悪い」忘れた先生たち」(読売新聞、 「ポイント還元策 不平等さを懸念」(読売新聞、十一月十三日)

「落書きと芸術の違い理解を」(朝日新聞、十一月十四日

「「ブラック」多く社会出るの怖い」(読売新聞、 十一月十九日)

④充実した批評、 ふせんのなかには内容の改善につながるようなコメントもあったが、 相互評価が不十分であったこと

考にしながら、今後は改善したい。また相互投票で「共感」を規準と は不調であった。コメント内容に制限をかけるなど、先行実践等を参 生徒同士の気兼ねもあって当たり障りのないものが多く、批評として したことは新聞投書欄の性質上、適切ではなかったと考えている。

#### Ξ ディベート

組んでいる。その際、教科横断を意図して国語総合では論理の組み立 働して取り組むこと」を学習目標として年次全体でディベートに取り 「産業社会と人間」において「社会への視野を広げること」「他者と協 行研究を参考にしながらディベートをおこなった。生徒は一年次の の書き方を学んでいる。 て方を学んだ。そこでは「三点ロジック」を使って根拠立てた意見文 社会問題をテーマに論拠の妥当性を話し合うことに焦点を当て、先

論文について詳述する。 なお、本稿では総合的な探究の時間との関連として、ディベート小

## (一) 単元の概要

単元名 ディベートをしよう

時期 令和元年十一月~十二月 (全十一時間)

単元目標 論拠の妥当性を判断しながら話し合うことができる。

三点ロジックを使って、説得力のある主張ができる。

(指導事項

#### 授業の展開

②メモのとり方、尋問の方法、信ぴょう性のある情報の集め方 ①ディベートの説明、三点ロジックの復習

③ミニディベート (三人のグループ内でディベートを練習)

⑤「超ディベート」⑥「超ディベートー回戦、二回戦

⑥ディベート小論文

見を六○○字程度で述べるものである。ディベートの経験を活かすた ディベート小論文とは、任意のディベートテーマについて自分の意

念頭に次の内容を指導した。 (【資料7】)。さらに、総合的な探究の時間の論文執筆に活かすことを に対する反駁を入れること」の二点を特に指導し、評価の観点とした め「三点ロジックを用いた論理的な根拠づけをすること」「反対意見

※指導上の留意点

・「パラグラフ・ライティング」の書き方で書くこと

で一つの話題を扱い、複数の段落を組み合わせて論理的に文章を構成 「パラグラフ・ライティング」とは、一つの段落(=パラグラフ)

けることにもつながり、有益であると考えている。 点のみならず、読み手にとって読みやすい文章の組み立て方を身につ 高校の国語教育では指導されることがほとんどない。しかしパラグラ な書き方となっており、高校の英語教育では指導されることもあるが する方法である。渡辺哲司らが指摘するように日本の大学では標準的 フ・ライティングを学ぶことはライティング指導の高大接続という視

を用いて、この書き方で書くように指導した。 よって今回はパラグラフ・ライティングの解説プリント(【資料8】

適切な引用をすること

典・引用元を明らかにすることを指導した。 る。引用の際は、自分の文章と引用の文章を明確に区別すること、出 論文執筆の際に、書籍や論文、資料等から引用することは必須であ

## 成果と課題

①総合的な探究の時間につながる小論文が書けたこと

究の時間の論文執筆に活かせるスキルである。 引用の方法を適切にふまえた作品もあった (【資料9】)。総合的な探 小論文では、ポイントとして指導したパラグラフ・ライティングや

の妥当性を判断する力を養うことができたと感じている。 前年度のディベートと比べて議論の質は大幅に上昇しており、 論理 ②議論の質が高いディベートとなったこと

③指導事項が多すぎたこと

はないもので、生徒のなかには消化しきれなかった者もいた。 フ・ライティングや引用の方法は小論文の評価の観点(【資料7】)で 今回の単元では指導事項が多すぎたことが課題である。パラグラ

#### N おわりに

程をたどりながら表現する力をつけていく授業であり、ここで身につ れる。しかし生徒は非常に意欲的に取り組んでおり、一定の手応え感 たりと、本校の生徒にとって大きい負荷のかかる内容であったと思わ けた力は総合的な探究の時間や将来に役立つものだと考えている。 トの三単元について述べてきた。本実践は社会に目を向け、探究の渦 授業実践のうち、社会問題プレゼンテーション、新聞投書、 この授業は年間を通して発表を繰り返したり、小論文を何度も書い 本稿では総合的な探究の時間との教科連携を図った国語表現の年間 ディベー

《生徒の一年間のふりかえり》

じた。

りも楽しく授業が受けられた。 ろと学ぶことができた。 伝える・聞く力は確実に伸びていると思う。皆まじめで、 ・社会に出たときに役に立つことばかり教えてもらったし、 他のどの授業よりも受験に必要な知識を学べた。書く・話す・ いろい 何よ

と思っていた。けどいつからかめっちゃ楽しくなって、今考えると、 に役立てたい。自分と向き合うことで、知らなかったことも知れた。 ・最初は自分の意見を他人に発表したり話し合ったりいやだなあ

自分の意見を他人に伝えるのが好きになっている。

特質を活かし、国語科という教科でこそ身につけられる資質・能力を 育みながら、それぞれの学びが往還することが重要である。 なっているわけではない。教科横断の視点による授業でも、国語科の 本実践の次年度、筆者は一時的に授業から離れることになったが、 ただし、この国語表現の授業は総合的な探究の時間のためにおこ

改善され、指導が進められていると聞く。これからも教科横断の視点 に焦点を当てて教科横断的な授業展開がなされることを目論んでいる。 後は「現代の国語」等の共通履修科目や他教科・他科目でも、「探究\_ を活かした授業が組織的におこなわれることを目指したい。さらに今

その間の授業でも、本実践の指導案や学習プリントをもとに、さらに

#### 注

2 1 『高等学校学習指導要領 『高等学校学習指導要領 (平成三〇年告示) 解説 総則編』 (平成三○年告示)解説 総合的な探究の 四頁

8

3 井上雅彦は総合的な学習の時間を支える力を整理した上で、その 報処理、活用能力」「メディアの活用能力」について、「伝え合う うち国語科では「言語の基本機能」「コミュニケーション能力」「情 時間編』二六、一三頁

> している[井上雅彦(二〇〇八)『伝え合いを重視した高等学校国 授業を展開することにより、身につけさせることが可能であると 力を高める」ことを意図した三年間の学習指導計画にしたがって

本標準、第Ⅱ部において、福井県立藤島高等学校、 八田幸恵(二〇一五)『教室における読みのカリキュラム設計』日 語科カリキュラムの実践的研究』渓水社、第5章]。 福井県立若狭

4

高等学校における渡邉久暢の単元「こころ」の実践が収められて

井上志音 (二〇一七) 「教科横断を導入した国語科探究学習の実践 『日本私学研究所紀要』 第五三号

5

6 田中宏幸(二〇一九)「高等学校「国語表現」の授業をどう考える か」『日本語学』五月号、明治書院には、 国語表現に関する実践研

答申では「国語による主体的な表現等が重視された授業」、「「「話 究文献リストが掲載されている。

7

要な方策等について(答申)」平成二八年一二月二一日 学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必 なわれていない」とある。(中央教育審議会「幼稚園、小学校、中

すこと・聞くこと」,「書くこと」の領域の学習」が「十分におこ

文部省初等中等教育局長通知「総合学科について」平成五年三月 単位時間程度とされるのに対し、「話すこと・聞くこと」は二〇~ 新科目「現代の国語」では、「読むこと」の授業時数が一○~二○ 三〇単位時間程度、一書くこと」は二〇~四〇単位時間程度である。

三日

9

- 10 二年次生(平成三〇年度入学生)は「総合的な探究の時間」の移
- 時間」だが、本校の授業内容を鑑み、本稿では「総合的な探究の行措置(先行実施)の対象ではなく、科目名は「総合的な学習の
- 究テーマの決め方」「情報の集め方」「論文の書き方」「論文見本」11 本校まなび支援部が作成したオリジナルテキスト。章立ては「研

<sup>-</sup>過去の優秀論文」などで、後述の「パラグラフ・ライティングの

20

19

時間」に統一して表記する。

12 本実践は年間を通して、筆者も含めた三名の担当教員で共同で作書き方」「引用の方法」も含めて約五〇ページにわたる。

り上げたものである。

- のグランドデザインに基づいた学習指導案を学校全体で作成する13 高木展郎はカリキュラム・マネジメントの観点から、学校や教科
- 『評価が変わる、授業を変える』三省堂、一五六頁]。 ことを説いており、その考えを参考にした[高木展郎(二〇一九)
- 14 たとえば、野中潤編著(二〇一九)『学びの質を高める! ICT

で変える国語授業』明治図書出版などを参照。

- いない生徒には教室に有線LANで繋いだ貸し出し用パソコンを持ち込んで利用すること)」の発想である。スマートフォンを持って15 「BYOD(Bring Your Own Device = 自宅や個人の端末を学校に
- 社会に直結する活動が多く取り上げられている。知識や技能を身に付けるようにする」とあり、言語活動例には実活、新学習指導要領「国語表現」の目標には「実社会に必要な国語の

使用させた。

- ション』みくに出版を参考にした。 17 川嶋直(二〇一三)『KP法 シンプルに伝える紙芝居プレゼンテー
- ポスター作成の際に図や画像を用いるよう指導している。18 六、七月実施の前単元「NZについてのポスターセッション」でも
- 思考整理法という意味で「KJ法」を意識しているようである。 川嶋 (前掲著、八四頁) によると、「KP法」というネーミングは
- 浜本純逸監修、田中宏幸編『中学校・高等学校「書くこと」の学田中宏幸(二〇一六)「「書くこと」の授業づくりの基本的考え方」
- 筑波大学附属駒場中学校・高等学校における澤田英輔の実践(ブ

習指導 実践史をふまえて』渓水社、二〇頁

21

- ・「はじめての「新聞の読者投稿を書く」授業、わかったことと反ログ『あすこまっ!』)を参考にした。
- ・「新聞の読者投稿を書く授業、2年目はこんな風にしました。」省点。」(二〇一七年)https://askoma.info/2017/12/25/5871
- 2 多くり上走が殳彗閘り彗歩手こよ七交り高給号が多く、告い世弋(二〇一九年)https://askoma.info/2019/02/12/7125
- 24 富谷利光は「国語表現Ⅰ」で投書の授業実践をしており、投書のストなどの作成・分析ができるウェブ上のサービスである。

推敲の場面で「批評者は反論をする(反対意見を書く)こと。で

117/12/25/5871 こんな風にしました。」 12/7125 (徒のなかでは一〇代で 徒のなかでは一〇代で 徒ないかと期待が高 ではないかと期待が高 マレスである。

授業』教育出版、第3部第1章]。今後の指導に活かしていきたい (二〇〇六) 『評価規準と単元化でつくる 達成感のある国語表現の きない場合は質問をする」という指導をしている[富谷利光

特に佐藤喜久雄・田中美也子・尾崎俊明(一九九四)『中学・高校 教師のための教室ディベート入門』創拓社、池田修(一九九五 『中学校国語科ディベート授業入門』学事出版を参考にした。

29

25

27 26 高校における筆者の研究発表は『全国高等学校国語教育研究連合 理の組み立て方である。三点ロジックについて、前任校の定時制 からなぜ主張が導き出せるかという説明)」の三つの要素による論 会第五〇回研究大会兵庫大会 大会集録』を参照 「三角ロジック」とも言い、「主張」「事実」「理由付け(その事実

から生徒の希望をもとに採用した。 ディベートの論題は以下の六つである。提示した論題候補の一 覧

全世帯を対象に高等教育の授業料を無償化すべきである。 選択的夫婦別姓を法的に認めるべきである。

選挙権の年齢を一六歳に引き下げるべきである。

企業は男性の育児休業を義務付けるべきである。

積極的安楽死を法的に認めるべきである。

出生前診断(遺伝学的検査)を禁止すべきである。

28

定」か、AかBか、何が「正解」か、ではなく、互いの意見を考 法をもとにした苫野 『教育の力』講談社現代新書、二二〇~二二九頁]。「肯定」か「否 『超ディベート」は、ヘーゲルの弁証法とフッサールの現象学の方 一徳の考えを参考にした[苫野一徳(二〇一四]

> 渡辺哲司・島田康行(二〇一七)『ライティングの高大接続』ひつ 得解」「第三のアイデア」を出すというものである。ディベート終 じ書房、第12章および「付録 パラグラフ・ライティングの指導 点 (否定側の意見をもとに)」「第三のアイデア」を話し合った。 点」「その解決策(肯定側のプランをもとに)」「その解決策の問題 了後、班を半分に分けて、対立していた班と合流し、「現状の問題 え合わせた上で、できるだけ皆が納得するような「共通了解」「納

事項」を参照

- 24 -

			숙	÷≢0÷	元年度 2年次 国語表	現(2単(	立、28人×3講座) 年	F間指導表	※実施後まとめ
	日付	曜日			単元目標~テーマ~	領域	指導事項	学習活動	端考、教科書資【評価】
	4/11	木	1		表現することの難しさを知る	話す・聞く	エ 目的や場に応じて、言 禁造いや文体など表現をエ	伝言ゲーム、ペアで連想したものゲーム	
	4/18	木	2	1				聞き手を引きつけるスピーチに必要なス キルを考える+練習する	p.118~
4	4/23	火	3		聞き手を引きつけるスピーチ をすることができる		エ 目的や場に応じて、言 葉遣いや文体など表現をエ	スピーチ構想メモ作り	
	4/25	木	4	表	~「日本」を紹介するスピー	話す・聞く	夫して効果的に話したり書 いたりすること。	スピーチ① (前半14人)	【評価】スピーチ
	5/7	y.	5	現の	チをしよう~		11/209 SCC.	スピーチ② (後半14人)	【評価】スピーチ
	5/9	*	1	基				作文プリント(正しい文を書く)	p.9~, p.164~
	5/14	火	2	礎を			ウ 主張や感動などが効果	エッセーを読み、読み手を引きつける	
5	5/23	*	3	8	読み手を引きつけるエッセー を書くことができる	<b>a</b> <	的に伝わるように、論理の	エッセーとはどのようなものかを考える 権想メモ、下書き	
		<u> </u>	4	につけ	~「17歳からのメッセージ」 に応募しよう~	_``	構成や描写の仕方などをエ 夫して書くこと。	下書き、推敲	
	5/28	火	5	る				清書	【評価】提出原稿
	5/30	木	-	N Z					p.30~
	6/4	火	1	を修	論拠立てて小論文を書くこと	書<	ウ 主張や感動などが効果 的に伝わるように、論理の	小論文を書く	D.00
	6/11	火	2	学	ができる~「異文化」をテーマにして~	8	構成や描写の仕方などを工 夫して書くこと。	小論文を書く	【評価】小錦文
6	6/13	木	3	旅行			XUCE CC.	小論文を書く	p.148~
	6/25	火	4	ľ	図や写真を用いて編集して、		ア 話題や題材に応じて情	NZポスターをつくる	
	6/27	木	5		効果的に表現することができ る	話す・聞く	報を収集し、分析して、自 分の考えをまとめたり深め	NZポスターをつくる	【評価】ポスター
7	7/9	火	7		~NZについてのポスターセッ ションをしよう~		たりすること。	ポスターセッション(講座内)	
	7/16	火	8		7372003	L		ポスターセッション(講座合同)	会場は会議室
8		_					夏季休業		Service Services
	9/5	*	1	1				<b>調査、準備</b>	p.132~
	9/10	火	2		※本稿 Ⅲ 一		77 25054-651-17-17-17-18	準備 (下書きシート完成)	
9	9/12	木	3		社会問題について、探究のブ	話す・88く	ア 話題や題材に応じて情報を収集し、分析して、自	準質 (フリップ記入)	
9	9/17	火	4		ロセスに落とし込んで、効果 的に発表することができる	BU 9 INC	分の考えをまとめたり深め たりすること。	グループ内発表	【評価】発表準備シー ト
	9/19	木	5	1	~KP法でプレゼンをしよう~			代表者発表	
	9/24	火	6	1				社会問題についての小論文を書く	【辞価】小論文
	10/3	木	1	1	※本稿 II 二 社会や身の回りのことについ		オー書いた文章を互いに誘	新聞投稿を読む、分析する	100
1	10/8	火	2	1	<b>「て、伝わる奇貝文を描くこと</b> 」	4-10	み合ったり批評したりし て、自分の表現や推敲に役	分析をいかして、下書きを書く	
10	10/15	火	3	1	ができる。/下書きを推験し合って、よい作品をつくり上げることができる。 〜新聞投資をしよう〜	甚<	立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。	下層きを推敲し合う	
l	10/17	*	4					演图を投稿する	【評価】新剛投劃消費 結構
	10/31	木	1	旧	数語について	東級文化・服務の発揮	カ 国語における言葉の成 り立ち、表現の特色及び言	敬語プリント	【評価】敬語小テスト
<u> </u>	11/5	火	1	を向			THE STREET	導入、3点ロジック、幕間の方法	a175~
	11/7	*	2	ゖ			-	メモを取る練習、ミニディベート準備	
	11/12	火	3	て表		100		ミニディベート本番	【評価】準備シート
	11/14	*	4	現す		5,000		班分け、ディベート準備	
11	11/19	w	5	ઢ	※本稿 Ⅲ 三	100	イ 相手の立場や異なる者	ディベート準備	100000
	11/21	<del> </del> ^	6	ł	<b>誤拠の妥当性を判断しながら</b>	話す・脳く	えを尊重して課題を解決するために、論拠の妥当性を	ディベート①②	B1 - 10 - 10 - 10 - 10 - 10 - 10 - 10 -
		<u> </u>	7	ł	話し合うことができる	103.140	判断しながら話し合うこと。	ディベート③、ディベート準備	【評価】準備シート
	11/26	火	÷	1		1		ディベート準備	
<u> </u>	11/28	木	8	1		0.5		ディベート(4/5)	
	12/3	火	9	-				ディベートの、「超ディベート」	【評価】小請文
l	12/5	木	10	- 1				ディベート小論文	- 41 mm 4 - 3 mm - 5
12	12/17	火	11	1			カ 国語における言葉の成		
	12/19	*	1	1	語彙について	##XE - \$10/795	り立ち、表現の特色及び言	語彙カブリント	-1190
<u></u>	12/24	火	2	<u> </u>	新書ピブリオ本選び	話す・聞く	<b>葉濃いや文体など表現を工</b>	図書館で新書を選ぶ	p.118~
<u> </u>		_	_		I	<b>4</b>	を休業(課題 ビブリオ用読書  エー目的や場に応じて、言	T .	renum weren
1	1/14	火	1	1	目的や場に応じて、効果的に 話すことができる〜新書ピブ	話す・聞く		グループ内予選	【評価】準備シート
	1/16	*	2	1	リオバトルをしよう~		いたりすること	決勝戦	【評価】決勝出場者
1	1/21	火	3	ė				自己PR材料づくり・長所さがし	p.65~
	1/23	木	4	己のキャリ				自己界作文	ļ
	1/28	火	5		自分のよさを効果的に相手に	İ	エ 目的や場に応じて、言	自己PR作文、面接準備	【評価】自己PR作文
	1/30	木	6		伝えることができる〜模擬面	話す・聞く	天して効果的に結したり響	面接準備、面接ペア練習	p.75~
	2/4	火	<del></del>		いたりすること	模擬面接①	【評価】模擬面接		
	2/6	木	8	表現				模擬面接②	【評価】模擬面接
_	2/13	*	9	ਰ				模擬面接 予備 まとめ	【評価】模擬面接
2	2/18	火	10	3	自分の過去を振り返り、将来	書<	ア 話題や題材に応じて情報を収集し、分析して、自分の考えをまとめたり深め だりすること。	志望理由書 構想メモ	p.72~
	2/20	*	11	- lž	を考えて文章で表現すること かできる~志望動機書を書こ う~			志望理由書	
	2/25	火	12	1				志望理由書 1年間のふりかえり	【評価】志望理由書
		_		_					

)

2 年次	国語表現	プリント⑭	社会問題プレゼン	評価シート

2年()組()番 名前(

#### 【目標】

- ・社会問題について、情報を収集し、分析して、自分の考えをまとめることができる。
- ・フリップを使って、わかりやすく、聞き手をひきつけながら発表することができる。
- ・発表を聞いて、質問をすることができる。

#### 【自己評価ルーブリック】

(1) 発表を聞いて、メモを取ろう

	情報のまとめ	発表	質問
А	社会問題について、信びょう性のある情報を収集し、 問いと主張の形で、一貫性 を持ってまとめることが できた。	3分間を使い切り、聞き手 をひきつけながら発表す ることができた。	1人の発表に対して、平均 して、2つ以上の質問をす ることができた。
В	社会問題について、情報を 収集し、問いと主張の形で まとめることができた。	2分以上使って、聞き手を ある程度ひきつけながら 発表することができた。	1人の発表に対して、平均 して、1つ質問をすること ができた
С	社会問題について、情報を 収集したが、問いと主張の 形にまとめられていなか った。	1分以上使って、発表する ことができた。	発表に対して、ほとんど質問ができなかった。

①発表者〔	〕さん テーマ〔	)
内容メモ	よかったところ	評価 ・問いと主張に説得力がある (4 3・2 1 )点 ・聞き手を引きつけた発表をしている (4 3・2 1 )点 ⇒合計()点
②発表者〔	〕さん テーマ〔	)
内容メモ	よかったところ	評価 ・問いと主張に説得力がある (4・3・2・1)点 ・聞き手を引きつけた発表をしている (4・3・2・1)点 →合計()点
③発表者〔	〕さん テーマ〔	)
内容メモ	よかったところ	呼価 ・問いと主張に説得力がある (4 3 2 1 )点 ・ 間き手を引きつけた発表をしている (4 3 2 1 )点 →合計( )点
(3)自分の発表につい	いて、情報のまとめ方や、発表方法にほ	関して、うまくいったこと、課題。

#### 2年次国語表現 指導案⑪ 社会問題 KP 法プレゼン 【19 年 9 月 5 日(木)~】

単元名	フリップを使ってプレゼンテーションをしよう [テーマ:社会問題、世界の課題]
1,7=1-	・社会問題について、情報を収集し、分析して、自分の考えをまとめることができる。
目標	・フリップを使って、わかりやすく、聞き手をひきつけながら発表することができる。
	・発表を聞いて、質問をすることができる。
	【展開】
	9/5 (木) 社会問題について、知る、調査する
	9/10 (火) プレゼン準備(1)
	1.1.1
	9/12 (木) プレゼン準備②
	9/17 (火) グループ内発表会
	9/19(木)代表者発表
	9/24(火)小論文
	【詳細】
	9/5 (木)
	①説明
	・社会問題について、知るべきである。
	,
	(大学、短大、専門学校入試等でも頻出)
	9/10 (火)
	9/12 (木)
	・プレゼン準備
	・フリップ記入まで終われば、発表練習
	・発表練習も満足した人は、別途プリント学習
展開	元 S M E O I M C O I C M S C M M C O I T I E E
	WHOM LOUDER H
	※指導上の留意点
	①問いと主張が結びついているか?
	ここが結びつかないと、論理の一貫性がない。
	(例)
	「なぜか?」→理由を答える
	「どうすればよいか?」→手段を答える
	②主張(解決策)は、「個人の努力」ではなく社会的な視点があるか?
	(例)
	「少子化をとめるには?」
	→△「子どもをたくさん生みます」
	→「子育てしやすい環境を構築することが必要」
	③わかりやすく発表するために、具体例、データ、数値を入れていくとよい。
	※「ニュージーランドポスターセッション」を参考に。
	<u></u>
	成績評価対象・・・下書きシート (プリント®)
	A 社会問題について、信びょう性のある情報を収集し、問いと主張の形で、一貫性をもってまと
表型 Auc	A   任芸問題について、指いより任のある情報を収集し、同いと主張の形で、一貫注をもってよと   めることができている。
評価	
	B 情報の信びょう性△・論理の一貫性△
	C 情報の信びょう性×・論理の一貫性×
	D 発表なし

3

92万1000人

・働きやすい職場環境

待機児童の解消 (保育園問題)

#### 合計特殊出生率

(2016年)



参考文献

・「合計特殊出生率について」(厚生労働省) ・「続く少子化 政策のズレ見直しを」(朝日新聞、2019年6月25日)

8

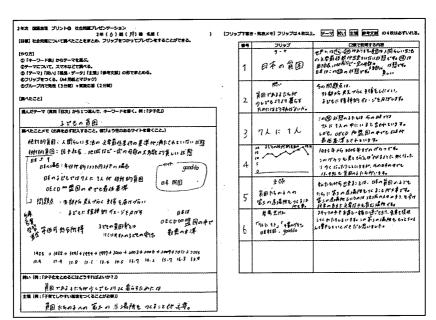
労働人口の減少 社会保障などの維持が 困難

2 問い 小子化をとめるには どうすればよいのか?

日本人の出生数の推移 120 110 124万1160人 100 平成元年 4 7 10 13 16 19 22 25 28 30 総務省「人口動認調査」(2019年)

6 主張 子育てしやすい環境を

つくることが必要



国語表現「新聞投書」クラス内投稿フォ ーム ・&ぶ	
受調番号を選択してください。 * 対収 →	
名前(漢字・フルネーム)を入力してください。 ・ 回答を入力	
テーマ (タイトル) を入力してください。 ・ 回答を入力	
投書の文章を記入してください(メモアプリにまず記入して、それを貼り付ける とやりやすいです)。	
回音を入力 送信	)

	根拠づけ	反対意見に 対する反駁	字数
А	主張に対して論 理的な根拠づけ がなされている	反駁が説得力を 持ってなされて いる	字数が560字以上 ある
В	根拠づけをしよ うとしている	反駁しようとし ている	
С	根拠づけがなさ れていない	反駁していない	字数を満たして いない

## 「パラグラフ・ライティング」 と

**「バラグラフ・ライティング」とは、一つの段落(「バラグラフ・で、一つの話題(=トピッグ)を扱い、複数の段落を組み合わせて論理的に文章を構成する方法である。読み手が読みやすく、書き手も認みい、複数の段落を組み合わせて論理的に文章を構成する方法である。読み手が読みやすく、書き手も認みいて知られる。** 

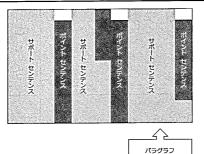
①文章は、複数の「パラグラフ」によって成り立っている。「パラグラフ」・・・意味のまとまりをもった形式段落のこと。

(こうグラフのないと) というがっています。(こうのパラグラフのなかには・・・(こうのパラグラフに、内容(言いたいこと) は一つだけである。

「ポイント センテンス」は、原則として「パラグラフ」の冒頭におく。・「ポイント センテンス」の説明や根拠、具体例などを書いた「サポート センテンス」がある。・パラグラフの内容を一文で端的に表す「ポイント センテンス」がある。

※「ポイント センテンス」だけをつなげると、全体の要約になる。

(例) 三つのパラグラフによって成り立っている文章



[8] ポイントセンチンスに騒を引こう。 学校の越食は弁当と地穴のはりが望ましたと考える。 ろうか。私は給食のほうが望ましたと考える。 給食は弁当と比べるの効率がよい。弁当の場 粉食は弁当と比べるの効率がよい。弁当の場 い時間帯に、調理したり弁当器に詰めたりする りをと、度に調理し、いっせいに配膳するので、 を加をがよって、費用を低く抑えることとによ 効率がよい。料料をまとめて購入することとによ 効率がよい。料料をまとめて購入することとである。

もあるだろう。一方、後妻をは、女生徒のので、 効率がよい、「日本ので、 効率がよい、「日本ので、 効率がよい、「村村をまとめて購入することによって、費用とを修り知えることもできる。 また、給食は栄養面において使れている。井 当は家庭によって、世界を主が成立を決めるのでういう同 即は起こらない。調理したての温かい状態なの で味がよく、成美別様といての温かい状態なの で味がよく、成美別様といての温かい状態なの で味がよく、成美別様といる。 また、給食は栄養面において使れている。井 当は家庭によっていい。 「日本のようしている」。 第2日の栄養士が献立を決めるのでういう同 即は起こらない。調理したての温かい状態なの で味がよく、成美別様といての温かい状態なの

※「四番表現 改訂版」より一部改変 校の昼食としてふさわしいのである。 校の昼食としてふさわしいのである。

【資料9】「ディベート小論文」生徒作品

# 企業は男性の育児休業を義務づけるべきなのか

企業は男性の育児休業を義務づけるべきなのだろうか。私は、企業は男性の育児休業を義務づけるべきではないと考える。理由は二つある。しかし、会まで育児に興味がなかった男性も育と述べている。たしかに、義務化にすることで男性は育児休業をと述べている。たしかに、義務化にすることで男性は育児休業をと述べている。たしかに、義務化にすることで男性は育児休業をと述べている。たしかに、義務化にすることで男性は育児休業をと述べている。たしかに、義務化にすることで男性は育児休業をと述べている。たしかに、義務化にすることで男性は育児休業を表務づけるべきなのだろうか。私は、企業は男性の育児休業を義務づけるべきなのだろうか。私は、企業は男性の育児休業を義務づけるべきなのだろうか。私は、位業は男性の育児休業を義務づけるべきなのだろうか。私は、位業は男性の育児休業を義務づけるべきなのだろうか。私は、1

につ目は、育休を義務づけたからといって育児をするとは限ら にのように、現在自主的に取った育休ですら育児をきちんとやっ にのように、現在自主的に取った育休ですら育児をきちんとやっ と、育休中の夫の三人に一人が家事、育児が二時間以下であった。 と、育休中の夫の三人に一人が家事、育児が二時間以下であった。 と、育休中の夫の三人に一人が家事、育児が二時間以下であった。 と、育休中の夫の三人に一人が家事、育児が二時間以下であった。 と、育休中の夫の三人に一人が家事、育児が二時間以下であった。 と、育休中の夫の三人に一人が家事、育児をするとは限ら にいる人は少ないのではないか。それでは、義務する意味 を育児をする人は少ないのではないか。それでは、義務する意味 を育児をする人は少ないのではないか。それでは、義務する意味 を育児をする人は少ないのではないか。それでは、表務する意味 を育児をする人は少ないのではないか。それでは、表務する意味 を育児をする人は少ないのではないか。それでは、表務する意味 を育児をする人は少ないのではないか。それでは、表務する意味 を育児をする人は少ないのではないか。それでは、表務する意味 を育児をする人は少ないのではないか。それでは、表務する意味

ではないと主張する。 以上のことから私は、企業は男性の育児休業を義務づけるべき